SVCF 通信
第 161 号　2023. 8. 25

公益社団法人 福島原発行動隊
東京都千代田区神田淡路町1-21-7
静和ビル 1階A室　〒101-0063
Tel: 03-3255-5910　Fax: 03-3525-4811
Mail: svcf-admin@svcf.jp　Web: http://svcf.jp

転居された方は事務局（svcf-admin@svcf.jp）まで転居先をお知らせください

第128回院内集会報告

第128回院内集会は8月18日、シリーズ「わがふるさとへの想い」第3回として、大熊町の帰還困難区域からいわき市に避難しておられる渡部 正勝（わたなべ まさかつ）さんを講師に、行動隊からは8名が参加し、オンライン(Zoom)で開催されました。

渡部さんは、1949年大熊町生まれ。大熊町役場の企画・産業・税務・建設部門を経て、水道課長・農業委員会事務局長・生活環境課長を歴任し、2009年3月に大熊町役場を退職（在職41年）。2009年4月、社会福祉法人大熊町社会福祉協議会事務局長となり、原発事故による全町避難を支援。2011年4月5日、会津若松市に協議会事務所を開設、以後事務局長兼常務理事、会長として町民支援を行う。2021年6月16日退任。大熊町生涯学習協力団体おおくまふるさと塾塾長としてボランティア活動。2018 年からいわき市に在住されています。

渡部 正勝さんの12年（渡部さん談）

2011年3月11日、地震が起きたときは友人と福島第一原子力発電所（以下、1F）から約1.5 kmのパークゴルフ場でゴルフをしていました。ゴルフ場の松の木がメトロノームの針のように揺れていました。1Fから約3 kmの自宅へ車で家族の安否確認に向かいましたが道路は渋滞していました。当時社会福祉協議会事務局長だったので避難所として確保するため町の老人センターを部下に片付けさせるとともに町の災害対策本部に連絡を取りました。町は総合体育館を避難所としていたので、家族とともに体育館に向かいました。次男は東京電力に勤めており、夜勤として1Fに向かいました、夜の9時20分には1Fから3 km以内の住民に屋外避難指示がありました。

翌12日午後3時過ぎ1号機が水素爆発を起こし、午後6時過ぎ全町避難指示が出され、田村市の小学校の体育館への避難が開始されました。当時の大熊町民は約11,000人でした。避難者の中には車椅子の使用者が4家族ありました、避難にはバスが動員されましたが、バスでの避難者は子どもと高齢者だけでしたので、家族単位で乗車するように進言しました。

3月14日には家族の一部が秋田県大館市の親せき宅に避難しました。

4月3日、会津若松市への二次避難が開始されました。最終的には会津若松市への避難は80数か所、3,000人以上に上りました。4月5日には大熊町役場会津若松出張所と社協事務所が併せて開設され町機能が会津若松市に移りました。

2018年には妻とともにいわき市の借り上げアパートに移りました。5年前には父が、4年前には母が、大熊に帰れないまま亡くなりました。

現在、町民の約45パーセントがいわき市で暮らしています。他に郡山市、南相馬市に多くの町民が暮らしています。

時々手入れに帰る大熊町の家は国道6号線を挟んで中間貯蔵施設の反対側の帰還困難区域にあります。2021年には社会福祉協議会会長を退き、グループホームを運営する法人の理事やおおくまふるさと塾の活動をしています。

町に対しては、もう少し町民に寄り添い、復興に向けて町民の声を聴く場を作ってほしいと思います。

大熊町の家の辺りは凹凸の多い地形でかつ高線量であり、2020年代の避難指示解除は難しいのではないかと考えている。家の状態は戻れる状態だが、家族の暮らしという面では難しい。周囲に3軒の家があるが、うち2軒は高齢等の理由で戻らないことを決めています。

内閣府は帰還困難区域内の避難指示解除の要件としてライフラインやコミュニティの回復を揚げており、家のある地区では集会施設用地を確保してありますが、これから6・7年元気で過ごせるかどうか分かりません。

いわき市では借り上げアパートの後中古住宅を取得しリフォームして暮らしていまする。息子や娘もいわき市内で暮らしています。

この先については、国も責任を取るべきだと思います。法改正して自由に自宅に出入りできるようにしてほしい。また現在500 mの線量測定のメッシュをもっと細かくして柔軟な避難指示解除ができるようにしてほしいとも思います。

質疑

質問：ALPS処理済み汚染水の海洋放出が決定されそうな気配だが渡部さん、また町民はどうお考えか？

回答：今年4月に1F構内に入り、膨大な汚染水タンク群を見たが、いつまでも置いたままでは廃炉が進まないだろうと感じた。海洋放出もやむを得ないという声も多い。

質問：大熊町内に大熊分析・研究センターがありデータや情報を持っていると思うが見学されてはどうか？

回答：センターは1Fの敷地内だったと思う。確認する。

質問：大熊町のご自宅に帰られる頻度は？

回答：震災でつぶれた神社の再建など文化財の保全活動に取り組んでいるおおくまふるさと塾の活動などで町に行く際に立ち寄るぐらい。自宅はこれまでに二度窃盗にあっている。

質問：1Fのリスクや廃炉の進捗状況についてどうご覧になっているか？

回答：事故後の1Fや他の原発でのヒューマンエラーの発生を見ていると、廃炉のゴールとされている事故後40年がどんどん先に延ばされているような気がしてくる。2号機でのデブリの試験的取り出しもグラム単位であり、事故後40年先の廃炉など無理だと思っている人も多い。
成り行き任せとしか言いようがない。
1Fから10 km圏内に戻りたくない、12年が過ぎて安全な場所で定着したいという人も多いと思う。

現在の人口も町の復興計画人口2,600人に対し600人ちょっとの移住者を含め1,100人ちょっと。

質問：1Fの事故時テレビを見ておられたか？見ていたとしてどう思われた？

回答：ダメだと思った。11日夜に1Fに夜勤で入っていった次男もダメだと思った。

質問：ダメだと思われた地域的範囲は？

回答：季節的に風が海側に流れると思っていたが…

質問：帰還する、帰還しないの判断はどこで分かれると思われるか？

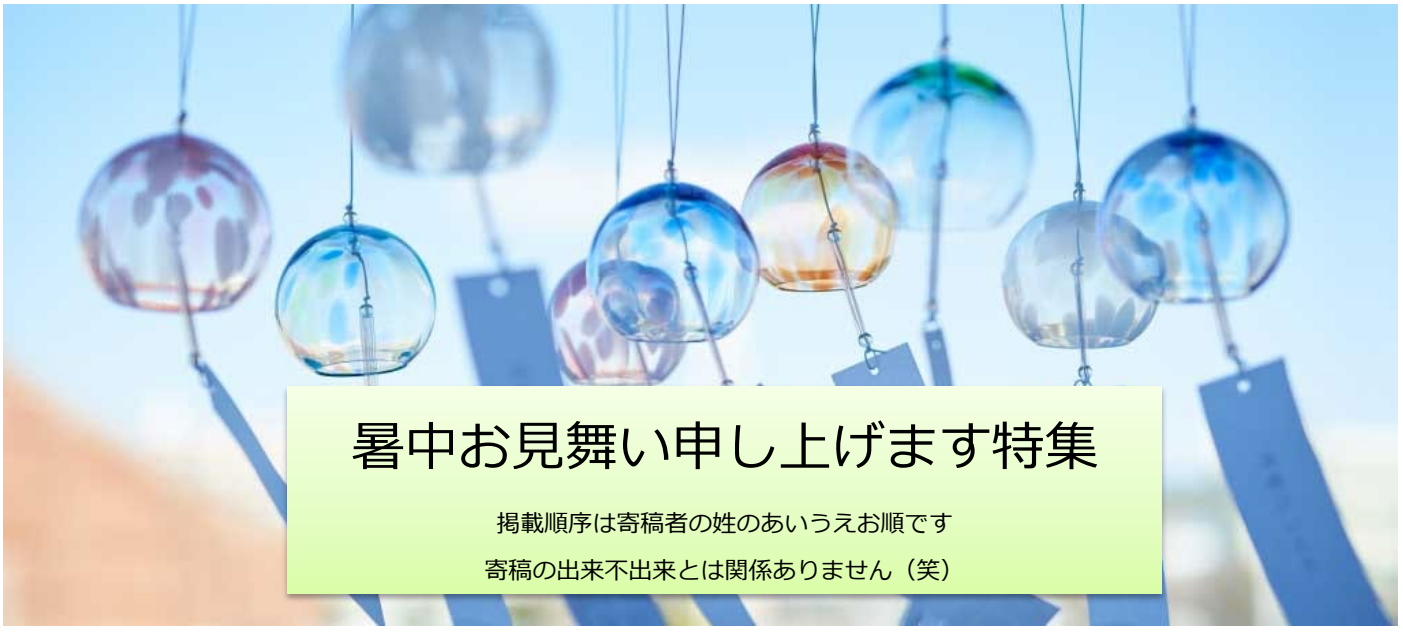
回答：若者は子どものこともあり、帰還を望まないと思う。

質問：帰還困難区域での家屋の解体が進んでいる。帰るところがなくなり、避難先での生活に問題がなければ多くの帰還は望めないのではないか？

回答：大熊町内での定住は難しいと感じている。

意見：行動隊は秋には現地での活動を予定している。その際、渡部さんのご自宅の手入れや、おおくまふるさと塾の活動でお手伝いできることがあればお知らせください。

一同：今日はどうもありがとうございました。



暑中お見舞い申し上げます特集

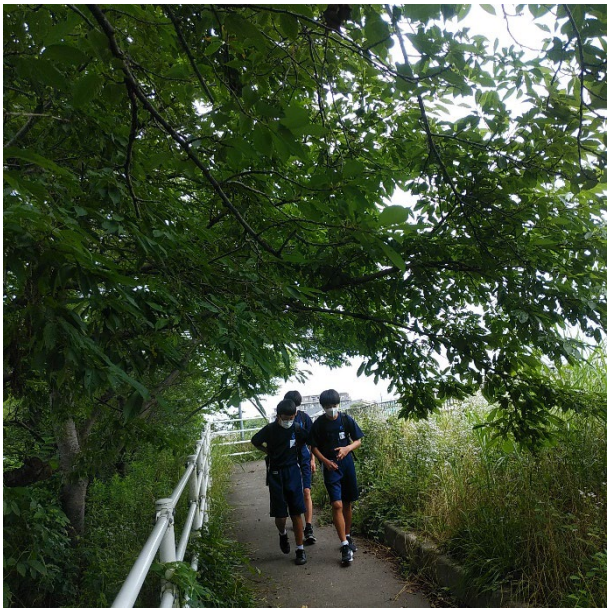
掲載順序は寄稿者の姓のあいうえお順です

寄稿の出来不出来とは関係ありません（笑）

季語

安藤 博

私の自宅は千葉県の市川市原木というところで、家の近くを真間川という幅10m 余のドブが流れています。その川の土手に約300mの桜並木があって、春夏秋冬ゆたかな彩りを見せてくれます。



【桜樹のみどりは昏し夏すずし】
部活なのか、近くの中学校の生徒たちが桜樹の深いみどりの葉の下を通って学校に向かいます。
皆さん、この句の季語はどの語か、お分かりですか。
私の大学後輩で「三郎」の号を持つ俳句の大先輩（注1)に「桜樹から暑中お見舞い」としてお送りしたところ、「すずし」が夏の季語であるとして、以下のようにぴしりとご批判いただきました（注1『角川　図説俳句大歳時記』）。
「『夏すずし』の『すずし』（涼し）の本意は『暑さの中に涼しさを捉えて夏を表現する』であり、『すずし』だけで夏の季語です。『冬さむし』とは言わないのと同じで、『夏・すずし』と並べることは感心しません。」
「恐れいりました」の一語です。ですが、「すずし」は文字通り涼しいことを言ったのであり、夏と同義反復的であるとされるのは納得いかない。『冬さむし』とは言わないのと同じように並べる事が問題なら、『夏・すずし』でなく「夏・暑し」ではないか。悪いのは、並べたことではなく、ふつうなら秋の季節感である「すずし」を、いかにも恣意的に夏の季語としたことだ、と悪態をつきたい気持ちでいるところに、たまたまボートの合宿所で師匠にお会いしました。そこでいい機会だと、畏れ多くも申し上げました。

「芭蕉が〈奥の細道〉信濃路出雲崎で詠んだという【荒海や佐渡によこたふ天の川】に季語なんかあるのでしょうか。暗くとどろく日本海、佐渡島に面して詠ずる一句の、時空を超えた雄大さ。季節などどうでもいい、ましてや季語なんか・・・」「季語は『天の川』、秋です」、師匠ははっきりと言われました（注2　俳人は嘘つき）。またもや「恐れ入りました」でしたが、腹の中では、「じゃあ、国語の教科書にもある
【古池や蛙飛びこむ水の音】はどうなんだ、芭蕉は季語を考えて詠んだりしたわけじゃあるまい」と、胸中ごねていたのです。
（後で調べると、季語は「蛙（かわず）」　夏）
さて皆さん、本稿は俳論を開陳するものではありません。「ガラにもなく『芭蕉』なんか持ち出しやがって。猛暑でアタマがおかしくなったか！」と嗤われましょう。言いたいのは、季語のような、無用と思える決まりごと、常套へのどうしようもない反感です。季語自体には何のうらみもありません。けれども、たとえば木曜日19時

TBSテレビの＜プレバト＞で梅沢富美男がどこからか探し出してきた夏の季語「水貝」(あわび)を課題句に取りこんでとくとくとしている、これを夏木先生が「さすがは永世名人」と褒めそやす。そうした、詩としての俳句の本質からみてどうでもいいように思えること(季語)を、あたかも句の核心であるかのようにのさばらせることに無上のうらみを覚えるのです。
同じことですが、書状、メールの冒頭にある「お世話になっております」や「お疲れさまです」には、「お世話なんかした覚えはないよ」「別に疲れちゃいないけど」とはねつけてやりたくなる。「よろしく」、これは何のことなのか。集会の講師をお願いするメールなどに、こころならずもこの語句を書き入れることもあります。しかし、たとえば英語にはなりようがない、まったく意味のない語句。それなのに日本は「よろしく」があふれている、“よろしく文化国”です。

すみません、どうも暑苦しい話しばかりで、「夏すずし」とはなりません。仕方がない、ついでにもうひとつ暑いことを。
東京電力/日本政府(原発政治家・官僚)は、日・韓・米の政治会談を終えて8月末、汚染処理水の海洋放出を始めようとしています。暴発崩壊した東京電力福島第一原発から出た水を海に流し込んだ2023年8月の忌まわしき思い出から、いつの日か「汚染水」が夏の季語となるかも知れません。

注1　大先輩のご講評は、安藤が季語を軽んずることについての以下のように言葉に始まっています。

「『角川　図説俳句大歳時記』をお持ちになりながら、殆ど繙いていないのではないか、と勘繰って居る次第であります。その様なことを思いながら、一筆啓上申上げます」。

『大歳時記』は、大先輩が安藤に2年ほど前にご贈呈くださったものです。横約35cm×縦約60cmで厚さ約10cmの文字通りの「大」書。それが春・夏・秋・冬の4巻。生まれてこのかた、こんなに重たい本に出会ったことはありません。むち打ちに屈しない容疑者を責めた石抱き拷問の、石の代わりに使えそうな重量感があると、季語とはまるで関係ない事を思ってしまいます。

注2「荒海や」は、奥の細道を岩手、秋田でUターンして日本海側、奥州路から北陸に至ろうとする途中の元禄二年七月七日、直江津の佐藤元泉宅で催された句会で吟じられたとされています。

ところが記録によると、芭蕉が滞在していたこの年の七夕のころ、この地域は雨続きでとても天の川を見ることなどできなかった。さらに「天の川が輝くのは佐渡島とは反対の方角だ」と唱える研究者もいます。つまりこの句は、芭蕉が前から作っておいた実景以上に絵画的なものを、七夕の夜の句会で披露したのではないかと。

安藤の大先輩師匠は、句に添えてお送りする写真の日付が、句に詠まれたであろう情景・状況の日時とずれていることなどを指摘し「俳人はウソつきです」とおっしゃっています。

＜映画評＞ニッポニアニッポン～フクシマ狂詩曲(ラプソディ)～

家森 健

♪「貯まった貯まった汚染水　タンクはもうすぐ満杯だ　放出だ放出だ薄めてしまえば判らない判らない海は広いな大きいな地下水だって漏れている

良いじゃないか　少しぐらい　薄めてしまえば判らない」♪

♪「一基や二基の爆発で、潰してなるか原発利権　失敗しても爆発しても　次は廃炉さ　廃炉があるさ」

♪「行き先のない核のゴミ　ならばここに　どうせここには帰れない　帰りたくとも帰れない」

7月29日に才谷遼監督作品映画「ニッポニアニッポン」(2019年公開)を観た。映画の一番クライマックスシーンに「山下教授原子力研究所副所長就任を祝う会」がある。そこで冒頭の歌が流れ宴会場が狂喜乱舞する。

舞台は福島県の浜通り「楢穂町(ならほちょう)役場」である。架空の役場名ではあるが「楢葉町」であることは容易に想像できる。町内に流れる木戸川、天神岬、竜田駅、Jヴィレッジがロケ地として出てくる 。飯舘村、会津若松市、大熊町、双葉町、浪江町等々私には馴染みのある地名である。(町を「ちょう」と発音しているのは意図的だろう？)カット、カットで意味あるシーンが大量に出てくるが、その一々を理解する間もなくスクリーンは次に移るのだ。巨大な蚤は何を意味するのか、巨大な蛸の意味は？とかとかふんだんに出てくるのだ。因幡の白兎が何故か出てくる。反原発、反核映画と言えば言えるが、予告編(https://youtu.be/XlZJdlD4q-I)のみ観た人には、宴会場での狂喜乱舞や歌声は地元住民の心情を逆なでしていると捉えるかもしれない。東京電力、福島第一原子力発電所、東芝、日立、三菱とメーカー名も実名出てくるのでよけいに反原発映画そのものと思わせる。　ユーモアと皮肉を散りばめるパロディー作品であ

り有名なアニメーターのが映像として流れ、かつミュージカルな作風として捉えることも出来る。要するにてんこ盛りなのだ。

御用学者、原発関連業者、行政機関に於ける原発推進した連中の思考回路を描いたものと言える。彼らに通底している物事の捉え方を描いた。それは、大宴会の歌に現れている。

♪「東大出て何十年上り詰めたるこの地位を誰に渡してなるものか　これが国策自民党」

「潰してなるか原発利権」「次は廃炉があるさ　四十年は続く廃炉事業で丸儲け・・」

かくして政府は「ALPS処理水」を8月下旬に福島県沖に放出する。再稼働原発も増加は既定路線どおりである。使用済み核燃料の中間貯蔵施設さえ増設していく。高レベル放射性廃棄物の処理処分場が未だ解決をみないにもかかわらず、この部分を隠したまま再稼働は進められ、廃炉事業も邁進するのだ。

フクシマを取り上げた映画はあまたあるが、この映画は秀逸作品の一つで、お薦めである。

残暑お見舞い申し上げます。

加藤 朗

定年退職後、もっぱら20年以上続けてきた黒色火薬の研究に専念しています。今は、関連書籍2冊を翻訳しています。順調にいけば、今年、来年には出版できるかと思います。その概要について、少し御紹介したいと思います。

19世紀に化学合成火薬が発明されるまで、世界中に火薬は黒色火薬1種類しかなかった。　黒色火薬の組成比率は世界中、基本的には硝石6、硫黄1，木炭1である。この配合比率と火薬の粒の大きさによって、燃焼速度が変わり、粉状の点火薬と粒状の発射薬に大別できる。

黒色火薬で最も重要なのは、主成分の硝石（saltpeter）である。日本では、塩硝、煙硝、焔硝とも呼ぶ。化学名は硝酸カリウム、化学式はKNO_3。硝石には天然硝石と人造硝石がある。砂漠のような乾燥地帯で、石（saltpeterの語源となったpetro）のように結晶が露頭したり、土壁や床下の土などに塩のような結晶化した普通の塩とともに硝石が産する。これが聖書にある地の塩、天然硝石である。ただし、天然硝石には硝酸カルシウムや硝酸ナトリウムなどの潮解性の高い硝酸塩が含まれており、カリウムを含む灰汁で煮て潮解性のない硝酸カリウムに置換して、精製する方法が確立するまで、天然硝石で作る火薬は湿気易く、兵器には不向きであった。硝石の化学的生成過程がわからなかった時には、天然硝石を採取するしかなかった。

翻訳中の1冊『硝石の大英帝国史―火薬の母：硝石』では、硝石採集者を英国ではsaltpeterman と呼び、英国近世において彼らの活動が英国の議会制民主主義を後押しし、植民地インドから輸入する大量の硝石が大英帝国興隆の源泉となったことを明らかにしている。

硝酸カリウムの硝酸はインドの硝石から採れる。一方19世紀末にカリウム鉱山がドイツで見つかるまで、カ

リウムは灰からしか取れなかった。硝石を精製し純度99％の硝酸カリウムを造るには、カリウムは必須である。15世紀以来の森林伐採で必要な木材が取れなくなったイギリスは森林に覆われた北米に目を付け、植民地化した。ちなみに1776年の独立以来、米国特許1号は「真珠灰」というカリウム分を多く含んだ灰で、以後70年間アメリカの英国輸出品目第一位だった。インドの硝酸、アメリカのカリウムが大英帝国を支えた。

大英帝国の衰退、没落の原因も、第一に19世紀末に毒ガスの開発者ドイツのハーバーとボッシュが空中窒素固定法を発明し空気から硝酸の原料となるアンモニアを生成する方法を確立し、同時にカリウム鉱山がドイツ国内で発見されたこと、第二に規格化で米国が大量生産技術を確立し、軍事産業で米独が台頭したことにある。化学合成のアンモニアは火薬だけでなく肥料の原料にもなる。合成アンモニアで火薬を無尽蔵に作り出し、近代総力戦の原因ともなった。一方で19世紀末から世界人口が激増したのはアンモニアの人造肥料のおかげである。これまで肥料として固定された窒素による環境破壊が、実は温暖化の原因とされる二酸化炭素よりも深刻である。

もう1冊の訳書は、黒色火薬に関連した『黒色火薬時代』である。世界で初めて黒色火薬を発明した中国がなぜ銃砲では西洋に後れを取ったのか、が主題である。結論を言えば、17世紀初めまでは日本を含む東アジアとヨーロパとの銃砲技術にそれほどの差はなかったが、日本は徳川、中国は清が全国統一し、両国とも267年にわたって外戦も内戦もない天下太平の時代で、銃砲を改良する必要がなかった。

他方、西洋では、戦争ばかりで銃砲や火薬の研究が進んだ。特に火薬の研究では化学、弾道学、熱力学、銃砲の研究では製鉄、冶金等産業革命の基盤となる知識が爆発的に発展した。化学は上述の空中窒素固定法、弾道学では物理学、数学などが発展した。ちなみに現在のコンピュータは弾道計算をいかに素早く正確にするかという要求から生まれたものである。

ウクライナ戦争では、ウクライナはもちろん、ロシアも兵器の調達に苦労している。兵器調達の苦労は今に始まったことではない。16世紀に銃砲が本格的に実戦に使用されるようになってからは、各国とも銃砲そのものよりも、火薬なかんずく火薬の主成分である硝石の調達に苦労した。その意味で硝石は現代のウランにも匹敵する重要戦略物資だったのである。

今年の夏は例年にもまして「福島行き」が多いです。2回目の報告です。

杉山 隆保

7月29日に南相馬市に入り、3年振りに「相馬野馬追」で「復興浜団」の「記念タオル販売」のお手伝いをして来ました。この販売で稼いだお金は8月に福島県南相馬市萱浜で行われる「復興浜団」が行う追悼花火の費用に充てられます。

30日は「宵乗り」を初めて観ました。

31日は「相馬野馬追」の最後の催しが小高神社境内で行なわれました。「野馬懸」です。

午後から、報道で知っていた「常磐線舞台芸術祭2023」の「KEYNOTESPEEECH」を観ました。冒頭はこの企画を立てた柳美里さん、平田オリザさんと、小松理虔、相馬行胤、古川日出男、和合亮一さんら賛同者によるトークがくり広げられました。出演者・演技は磐城じゃんがら遊撃隊、富岡表現塾朗読構成「小良ケ浜はオラガハマ」、東北学院大学」「田植踊り」でした。富岡表現塾の「小良ケ浜」の歴史は1月に「富岡演劇祭」に来た時に資料をいただき歴史を学びました。最後が相馬民謡「相馬流れ山」の独唱でした。この民謡は「相馬野馬追」のあらゆる場面で聴きましたが室内で「独唱」を聴いたのは初めてでした。素晴らしかったです。尺八も見事な演奏でした。東北学院大学の「田植踊り」には喜びを感じました。菊地和子さんが『福島芸能の灯消さず―震災を生きる人々―』で紹介されていた、浪江町南津島の「神楽田植え踊り」だったからです。

私たちは一昨年、菊地さんの本を題材に「千代田文化の会30周年企画「私はあいちゃんのランドセル―福島原発事故の記録―ふるさとで過ごすモノたちのひとりごと」を朗読劇にしました。

この「常磐線舞台芸術祭」ような舞台芸術を通して、スローガンである「生活にゆとりを・職場に文化を・世界に平和を」を追い求めて行きます。

3年振りの「暑気払い」

上記の『私はあいちゃんのランドセル』を上演した後で「千代田文化の会」は衣替えを行い「サロンドゥ千代田文化」になりました。その第一回の「暑気払い」を7月13日に開きました。

コロナ禍では会って話し合う事の出来ない3年余でした。やはり会って語りあうのは楽しいです。

久しぶりで、みんな嬉しくて早く集まりすぎ、和泉橋区民館（東京・千代田区）に入れず、しばらく1階で待たされてしまいました。

調理室に入ると早速それぞれが料理の準備を始め、ポテトサラダ（ポテトは“杉山農園”提供）、ゴーヤチャンプルなど、それぞれが得意料理を始めました。

料理組でない人たちは足りない材料や調味料、飲み物などを買出しに。7時過ぎにようやく乾杯となりました。

これまで通り（「千代田文化の会」時代）に参加者がそれぞれ自己紹介し、自分の活動や取り組みについて語りました。とにかくみなさんよく飲み、よく喋りました。

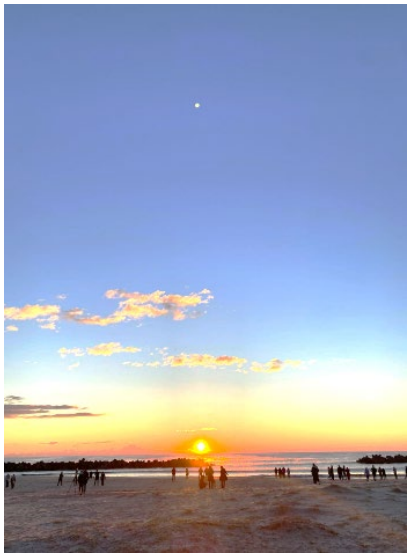
あっという間に時間が過ぎ、片付けの時間となりました。全員が協力して洗い物や掃除をしていると、久々に参加した日本フィルの伊波さんがトロンボーンを演奏し始めました。

素敵な演奏で、みんないい気持ちで（お酒も入っていたので）片付けを出来ました。久しぶりの楽しい暑気払いでした。

住めば都

高津戸 厚

この写真は茨城県高萩市の海（日の出）の風景です。



青い空、海原、白い砂浜,はるか水平線上に顔を出した太陽。片田舎にも、こんな素晴らしい景観があります。私は神奈川県（横浜）、静岡県（浜松）、栃木県（宇都宮）で暮らし、今は故郷である茨城県（高萩）に住んでいます。いろいろな場所に暮らしたことで、都会のよさ、田舎のよさを味わってきました。私にとって、どの場所も、優劣つけがたい、「住めば都」の感があります。4県に住んだことで、高校野球の時は、4県の高校の応援ができ、得した気がしています。しかし、現在、住んでいる茨城県は、県の魅力度ランキングで、最下位をうろうろしています。負け惜しみかもしれませんが、茨城県人のおもしろい発言を紹介します。「最下位をうろうろするのなら、むしろ最下位のほうがよい。最下位ならば報道機関に取り上げられる機会が多くなるから」。なるほど！一理あります。茨城県に住んでみて分かったことは、最下位になってもそんなに気にせず、笑い飛ばしていることです。裏を返せば、県内に素晴らしい魅力的なものがあることを、茨城県人は知っているからだろう。みなさん！少し視点を変えて、身近な場所の新しい発見や気づきを楽しんだらいかがでしょうか。どこの地域にも、素晴らしい魅力的なものがあるのではないでしょうか。

福島第一原子力発電所廃炉作業 *2023*夏

長塚 誠

福島第一原子力発電所の廃炉は 行動隊にとって 荷が重すぎます。確かに 現状は厳しく 先の見えない状態にあります。

行動隊は 十年以上 福島とかかわり 視察 支援活動を 継続してきました。

行動隊の情報発信は 第三者的な発言とは 違うのではないかと 自負したいところです。

行動隊が 当初より 主張していた事故の収束。廃炉に関しては 電力会社 と 別組織の廃炉専門事業体による廃炉事業の立ち上げでした。

東京電力は 原発の開発に ほとんどの労力 資源を投入してきました。

残念ながら 事故による イレギュラーな 廃炉事業に至ることは ほとんど 考慮されて来ませんでした。

事故後の 東京電力の推移を振り返りますと 多大な損害賠償。新たな 電力供給体制の整備など 電力会社そのものの存続に不安を抱えながらの十年でした。

決算内容も当然のことながら厳しく、被害賠償も払えない状況であり、政府による免除措置状態です。

廃炉にも邁進してはきておりますが そのスピード感 集中力が充分でないと 認識します。

汚染水処理に限らず廃炉の進展 終結こそが 福島の安全 安心につながります。

現在 一号炉の 内部が 分かってきたことにより, 新たな 原発事故の 危険性を はらんでいることも わかってきました。

この点は東京電力も認め ある意味 緊急性を伴う対応が必要となっています。 原子力規制委員会も この点は警告しています。

廃炉組織の枠組みの再構成が望まれます。廃炉事業主体が東京電力を離れることによる専門性の深化、集中力、スピード感をもたらす効果を期待してのことです。

東京電力も責任を回避できることはできませんが、ひとつのリスクと距離を取れ、電力会社本来の事業に集中できます。

繰り返しになりますが、具体的な 廃炉のための作業は行動隊には荷が重いです。

福島原発に関わってきた利害関係を持たないステー

クホルダーとして これら提言を継続的に訴えていくことは行動隊の使命、責任でもあると 改めて思う2023年の夏です。

敗戦から78年の8.15正午の黙祷を、三百万人を超える日本人犠牲者と数も知らないですが、海外犠牲者に捧げました。

2011.3.11は第二の敗戦だと認識しております。12年経過しました。いずれの責任も私たち日本人は十分に取れていません　　。

夏まつり

山田 次郎

地元の6自治会の連合による夏まつりが4年ぶりに開催されました。千葉ニュータウンの一角の地域ですが30数年開催されてきたものです。毎年5月から各自治会からの実行委員（輪番制）を中心に準備をしてきましたが3年のブランクで自治会役員の引き継ぎも難しい中で、協力委員（永久メンバー、わたしも）の協力も得ながら無事に終えました。熱中症や転倒の怪我など今年はまったく無く済み、ホッとしました。

2週間前から小学生以上の太鼓グループの練習成果を「子ども太鼓の演技」で夕方から幕開けし、次に円谷プロの本物のウルトラマンデッカーの登場、地域のグループによるフラダンス、そしていよいよ太鼓をバックに盆踊りを楽しんで最後は大抽選会。

1等は現金1万円、以下10kgのお米やその他の景品で楽しんで夜9時にお開きとしました。

やぐらは鋼製で2週間前にやはり協力委員などで建て方を行い、そのやぐらも夏まつり翌日には解体しております。

提灯張りや発電機からの配線などすべての作業は実行委員と協力委員で行っています。

6自治会で1,200世帯なのでプロデュースのプロ、電気工事士、大工、元とび職、プロのトラック運転手など、とにかく多才な方々が積年の中で参加しています。また、地域で育った青年が現在はプロで活動するタレントも居て、彼がマイクパフォーマンスと言って進行司会をしてくれています。

今年は4年ぶりとそれに新しいマンションや住宅も建っているからか、最大の人出でした。恐らく3,000人を超えたのでは。

市長の挨拶や駅前交番のお巡りさんの講話を行い、地元の「梨トレ体操」を白井市非公認の「じねんじゃー（自然薯）」と一緒に体操したり。お客様が帰られたあと、本部テントで委員みんなでお疲れ様で呑んだ発泡酒（予算なく）が最高！

白井市非公認じねんじゃー

9月の予定

＜院内集会（オンライン）＞

第129回院内集会(online)

シリーズ「わがふるさとへの想い」第4回

期日未定。

決まり次第、メール配信およびホームページ

http://svcf.jp/にアップし、お知らせします。

＜SVCF通信162号＞発行　未定

＜連絡会議＞（右地図参照）以下の各金曜日10:30から淡路町事務所

9月1日、8日、15日、22日、29日